

シカク出版だより

【シカク出版】古賀及子・スズキナオ往復書簡 ZINE

『青春ばかり追いかけている、なにもかも誰より 一番慣れない』発売中！

106ページ 新書サイズ 1200円+税

文筆家・エッセイストの古賀及子・スズキナオが「大人の感情」について交わした往復書簡集。「感情的」という言葉は子どもや若者の特徴のように扱われがちですが、大人なのに振り回されたり、大人になったから知る感情もあります。そんな大人の感情を見つめ、それぞれの目線で汲み上げる1冊。

シカク・全国のお取り扱い書店で好評販売中！

販売店のリストはQRコードをご覧ください。



★シカク月報の配布協力募集！

シカク月報を配ってくれるお店やスペースを募集しています。お礼としてチラシやショップカードを送っていただければ、シカクの店頭や通販で配布いたします。

現在の協力店舗さま 模索舎(東京)／BiblioMania(名古屋)／本屋B&B(東京)／ブックギャラリーボタム(東京)／FOLK old bookstore(大阪)／古本屋貳拾dB(広島)／花森書林(神戸)／タコシェ(東京)／なんば紅鶴(大阪)／シネ・ヌーヴォ(大阪)／雑貨屋ミケちゃん(大阪)／ホホホ座(京都)／ロフトプラスワンウェスト(大阪)／オソプランコ(大阪)／solaris(大阪)／誠光社(京都)／恵文社(京都)／(本)ぼんぼんぼん(大阪)／トランスポップギャラリー(京都)／マールカ古書店(京都)／OF(岡山)／ON READING(名古屋)／古本屋YOMS(香川)／古本ながいひる(岡山)／エフロノット(大阪)／opal times(大阪)／ンケリコ(大阪)／SOMA(大阪)／SPBS本店(東京)／1003(神戸)／TOKYO PIXEL(東京)／FAITH(東京)／画廊モモモグラ(大阪)／喫茶ペーパームーン(静岡)／旧グッゲンハイム邸(神戸)／フレイムハウス(大阪)／ブックバーひつじが(福岡)／君の好きな花(福岡)

シカク

大阪市此花区梅香1-6-13 火水定休日
平日 14:00～20:00／土日祝 13:00～19:00

【Twitter(X)】@n_SHIKAKU

【Instagram】@konohanashikaku

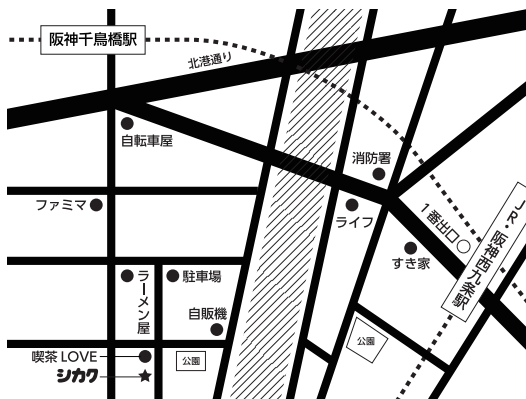
【Website】 <http://uguilab.com/shikaku/>

★ZINE・同人誌の委託 募集！

シカクではZINE・同人誌のお取り扱いをいつでも募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。

★おたより募集！

シカク月報やシカクのお店・イベントの感想などをメールやDMで送っていただけると励みになります。



リトルプレスと雑貨とギャラリーのお店・シカクが贈る
ニュースとコラムのゆかいなペーパー

シカク月報

2025/
02

愛と勇気の
低価格

¥00

伊豆見香苗 個展

in大阪 シカク



えっびっのおしごと展

伊豆見香苗 個展「えっびっのおしごと展」

2/7 fri
2/24 mon

激しく動くえびのキャラクター「えっびっ」がトレードマークのイラストレーター・映像作家、伊豆見香苗の個展を開催します！
展示会場ではえっびっがさまざまなお仕事に挑戦します。色々なえっびっのお仕事をのぞいてみよう！

3/8 sat ▶ 3/23 sun

はまぎしかなえ個展「おばけBON！」

日常にいるおばけの楽しくもトホホな生活を描くイラストレーター・絵本作家、はまぎしかなえの個展。
 かわちりとした作品集から肩の力が抜けたZINEまで「BON！」と飛び出すおばけの本をお楽しみください！



店舗がリニューアルオープン！

窓が一切なく開いているのか閉まっているのかわからなかった玄関が素敵に生まれ変わりました！
 店内も一部改装して以前より広々した印象になりました。遊びにきてね～！
 以前の扉の裏にあった名物サインも残してあるので、飾る方法を模索中です！

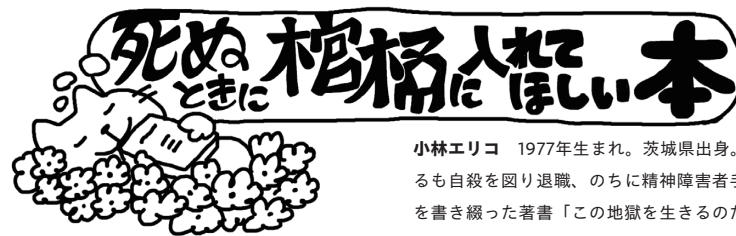


12月のベストセラーブック！～集計の都合で少し前のランキング～

★ 34. 231895 135.1632732 気鋭の漫画家megumirelandさんの100冊限定本。
 ★ megumireland こちらはもう完売しましたが、メグさんの他の本も取り扱いあります。チェック！

2 のんちゃんデイズ あかちゃんが生まれてから3ヶ月間のこと 斎藤充博

3 狸ケーキの図鑑 二子舎・鈴木二子
 4 実家の猫が懐かない 玉置標本
 5 どこかで遠くで飲みたくて 高知旅行記 今野ぼた



小林エリコ 1977年生まれ。茨城県出身。短大卒業後、エロ漫画雑誌の編集に携わるも自殺を図り退職、のちに精神障害者手帳を取得。自殺未遂の体験から再生までを書き綴った著書「この地獄を生きるのだ」が大きな反響を呼ぶ。フリーペーパー「エリコ新聞」を不定期刊行。自費出版物に「措置入院体験記」などがある。

私は10代の頃からずっと死にたかった。家庭内で受ける性暴力、両親の不和。父がアルコールとギャンブルにお金を使ってしまうので、学校の教材が買えないほど貧しかった。

そんな私に光を与えてくれたのは、大島弓子の「バナナブレッドのプディング」である。主人公の三浦衣良は周囲から浮いており、転校初日に「バナナブレッドのプディングに一番興味を持っている」と言ってクラスメイトから失笑をかう。そして、理想の男性は「周囲に後ろめたさを抱えている男色家」。その理由は、男色だと言うことをカムフラージュするために自分を

使って欲しいから、である。今でいうところの偽装結婚というやつだ。

衣良には積極的にこの世を生きる理由がない。死ぬことが許されないならば、他者が幸せになるために自分の体と人生を使って欲しい。

私もこの世に居場所がなく、自分が誰からも必要とされていないと感じて生きていた。だから、衣良の気持ちがとてもよく分かった。

地元の駅前にある古本屋で買った文庫本の「バナナブレッドのプディング」は、ずっと手元にある。私を生かし続けてくれたこの本を手放す時は死ぬ時である。

店主のひとりごと

◇◇たいけいけ"みゆき"◇◇

昨年末、風邪をひいた。熱や悪寒などはないが、咳が出るので周りの人にうつさないよう年末年始の予定はキャンセルし、家でずっと寝ていた。しかし咳は一向におさまらず、10日ほど経って今更のように微熱が出て、検査をしたらコロナだった。熱が出たのが以前から予定していたベトナム旅行の出発前日だったので、ウイルスに勝てなすぎる自分の身体にキレた。(行きのフライトを変更して根性で治したが、結局1週間の予定が2日だけの旅行となった)

私は30代半ばで、世間的には「徐々に衰えは感じつつもまだ元気な部類の世代」というふうに使われる。しかし身の回りやメディアで年上の方々の話を聞くと、同世代よりも一回り上の人たちの健康トークに共感することが多い。どうも私は基礎体力や免疫がなさすぎて、実年齢よりも衰えのスピードが速いようだ。幼少期から本やオタクやインドアの世界に没入するようになり、運動の習慣がないまま大人になったことが影響している気がしてならない。周囲の人々を見渡しても、学生時代に運動系の部活やサークルに所属していた人とそうでない人では、後者のほうが頻繁に体調を崩しているように思える。

運動は相変わらず好きになれないが、旅行の予定がぶっ潰されたことにキレた私は免疫を上げるためにジムに登録した。以前にも一度ジムに登録したことはあるが、その時は肩こり解消が目的だったため、目的を達成したあと満足してやめてしまった。しかし免疫はどんどん衰えるから、これからは生きている限り運動を続けなければいけない。自分を追い込むために今、会う人に片っ端から「免疫を上げるためにジムに登録しました」と宣言している。これを読んだ人は今度私に会ったとき、「ジム続いていますか？」と聞いて追い込みに協力してほしい。

